

# 関電の使用済核燃料の乾式貯蔵施設

## 6月福井県議会での建設同意を止めよう！

六ヶ所再処理工場のガラス固化試験の先送りは、安全性の軽視  
乾式貯蔵施設の建設同意を判断できる状況にはない  
福井県議会議員、関西の自治体・議員にメールや手紙等を送ろう

福井県議会議員のメール等はこちらにあります <https://x.gd/gYV5n>

6月福井県議会の日程 6月22日～7月21日 日程表 <https://x.gd/ZOXRt>



6月福井県議会で、関電の乾式貯蔵施設の建設同意判断が議論になります。関電は、乾式貯蔵施設の建設で、老朽原発の一層の運転延長を狙っています。関電は福井県、高浜町、おおい町に使用済核燃料対策のロードマップを説明し、福井県議会初日には全員協議会で説明します。今年秋の建設のため、県議会等の同意を取り付けようとしています。

しかし、以下に示すように、六ヶ所再処理工場のガラス固化試験の先送り等によって、関電のロードマップは破綻しています。ガラス固化ができなければ、関電等の使用済核燃料を再処理工場に搬出することはできません。建設に同意できるような状況にはありません。福井県議会の議員等に、「建設の同意判断をしないで」のメール等を送りましょう。6月県議会が山場です。

避難計画を案ずる関西連絡会は、福井の団体と共に、6月18日に県議会に陳情書を提出しました。陳情書はこちらにあります。 <https://x.gd/OkZhf>

1. 六ヶ所再処理工場の「設工認の説明終了」だけで、乾式貯蔵施設の建設同意を判断するのは無謀で、安全性の軽視です

(1) 「設工認の説明終了」だけで判断するのは無謀です。設工認の認可も出ていません

6月8日の審査会合で日本原燃は「設工認の説明は一通り終了した」と述べ、規制庁もこれを了承しました。しかし、耐震設計についての疑義等も出され、まだ説明が続く可能性があります。

さらに、再処理工場のしゅん工までには、補正書の

作成、補正申請の作成に数か月かかり、さらに保安規定の審査等もあり、今年度内のしゅん工は危ぶまれています。ガラス固化ができなければ、操業できません。

設工認の「説明終了」だけで、乾式貯蔵施設の建設同意を判断することはあまりにも無謀です。

(2) 再処理工場のしゅん工は、ガラス固化の製造試験を先送りにし、安全性を軽視しています

日本原燃は、これまでにガラス固化体製造に何度も失敗してきました。そのため、当初の計画ではガラス固化試験をしゅん工前の使用前事業者検査に入れていましたが、これをしゅん工後に先送りし、規制対象から外しています。

高レベル廃液を安定してガラス固化できることを確認することは、安全性を維持するために不可欠です。ガラス溶融炉は事業指定基準規則に基づく「安全上重要な施設」です。原燃がガラス溶融炉の処理能力を「安全機能」ではなく「生産機能」と位

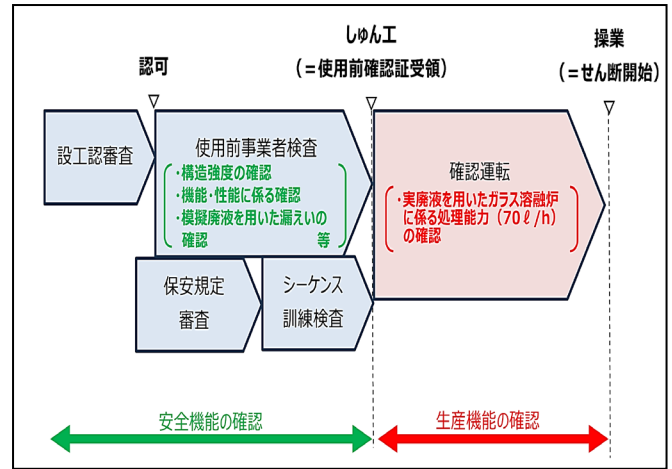
置付けていることは安全性の軽視です（図）。

さらに、溶融炉の封じ込め機能の検査は、実廃液ではなく模擬廃液で実施するといえます。しかし、模擬廃液には放射性物質や白金族元素も含まれていません。以前のガラス固化の失敗は、白金族が炉底に堆積したこと等によるものです。

機器の検査は、建設当時の古い資料で確認するといえます。検査もできず記録もない箇所もあります。これらで、安全性を確認することはできません。

▼2007年頃のアクティブ試験では、ガラス固化試験はトラブル続きでした。これらが改善されたことを規制委員会は確認していません。今回使用する溶融炉も前回のものと同じです。▼ガラス固化体製

造が滞れば高レベル濃縮廃液が蓄積し、冷却機能が喪失すれば沸騰する等して、高レベルの放射性物質が大量に外部に放出する危険があります。



2026.4.27 審査会合資料（日本原燃）

## 2. 関電の使用済核燃料対策のロードマップに実効性はありません

このまま乾式貯蔵施設の建設に同意すれば、立地地元が核のゴミ捨て場になる危険

### (1) 2027年度の再処理工場の操業開始はほとんど無理です

関電のロードマップでは、2027年度に六ヶ所再処理の操業が開始され、2028年度に関電の使用済核燃料を搬出する計画です。しかし、上記に述べた

ように、再処理工場の操業までにはガラス固化を含む大きな課題が残されています。再処理工場が操業できるのかは不透明です。

### (2) 中間貯蔵施設については、具体的な候補地さえ示していません

中間貯蔵施設の計画について関電は、「2030年頃の操業開始に向けて、引き続き、最大限取り組む。」としているだけで、具体化は進んでいません。

山口県上関町での中国電力の計画は、規模等の具

体的な構想さえ未だに公表することができず、関電の関与についても不明だと述べています。地元山口県では、関電分を受け入れることに強い反発があり、中間貯蔵施設の建設反対の運動が続いています。

### (3) フランスでの使用済MOX燃料の再処理も困難性が明らかになっています

関電は、フランスのオラノ社で使用済MOX燃料の再処理を2027年度から開始する計画です。しかし、「もんじゅ」の使用済MOX燃料用の再処理を予定していた（特殊燃料処理施設TCP）の新設計画

は、2028年までに運転を開始する想定でしたが、技術的にも資金確保の面でも目途がたたず、白紙撤回されました。フランスでの使用済MOX燃料の再処理も先行きは不透明です。

## 3. 県内及び30km圏内の京都府・滋賀県の住民の声を聴くべきです

福井県は、県民への説明会を開いていません。また、乾式貯蔵施設により、老朽原発の運転が継続され事故の危険が高まるにも関わらず、30km圏内の

京都府・滋賀県でも住民への説明もありません。

これまで何度も求めています。住民説明会等を開き、住民の声を聴いて尊重すべきです。

### 2026年6月21日 避難計画を案ずる関西連絡会

連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/ 原発なしで暮らしたい宮津の会/  
脱原発はりまアクション/ 原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会  
この件の連絡先：美浜の会 大阪市北区西天満4-5-8 八方商事第2ビル301 TEL：06-6367-6580